一筆啓上 作左通信

第七号　平成十二年十一月十六日（木）発行

本多作左衛門が陣中から妻に宛てた手紙、「一筆啓上　火の用心　お仙泣かすな　馬肥やせ」。この手紙の中に出てくる「お仙」とは、本多作左衛門の子供の「本多成重」と言われています。本多作左衛門が茨城県の取手市で亡くなった後、成重は、福井県の丸岡城主となっています。十一月九日、「一筆啓上　作左の会」主催で、四十三人がその丸岡町を訪れました。

丸岡町は、石川県に隣接し、人口約三万人。のどかで大変落ち着いた町です。町には、日本最古の天守閣を有する丸岡城があり、城内には「一筆啓上」の石碑が建っています。そして、周囲は霞ヶ城公園として整備され、春には桜がとてもきれいです。さらに全国有数の機織の町としても知られています。

丸岡町は、作左衛門ゆかりの地として、平成五年から、全国に「日本一短い手紙」の募集を始めました。今年のテーマは「私へ」。簡潔で素直に自分の思いを表現できることが好評を博し、集まった作品の数はなんと過去最高の十二万一千通余り。その数の多さには驚かされるばかりです。丸岡町はこの手紙の募集を通して、本多作左衛門の存在をアピールし、全国的に知れ渡るようになりました。

午前十一時、完成したばかりの「いきいきプラザ霞の郷」に到着し、文化振興事業団の事務局長大廻政成さんに、まず、手紙の募集についてのお話を聞きました。現在に至るまで、大変な苦労があったといいます。そして、丸岡城を見学したり本光院にある本多家歴代の墓にも参拝したりしました。大廻さんにとても分かりやすく、親切に説明していただき、丸岡町や本多作左衛門について研修を深めることができました。

本多作左衛門が生まれた愛知県岡崎市宮地町、終えんの地となった茨城県取手市、子の成重が城主となった福井県丸岡町。この三つの地域がトライアングルで交流を行うことができるようになれば、本多作左衛門の業績や人間性について、より深めていけるのではないでしょうか。今、「一筆啓上　作左の会」の活動が一歩ずつ前進しています。

－日本最古の天守閣の丸岡城－